

地域密着型サービス 介護・医療連携推進会議 報告書

施設名：薫風 24 ケアサポートセンター
施設種類：定期巡回・随時対応型訪問介護看護

時期：令和 8 年 9 月 25 日
場所：薫風の丘 食堂（一部書面にて報告）

報告者
(人数)

利用者代表	1 人	利用者家族	1 人
有識者	1 人	高齢者あんしん支援センター職員	1 人
地域住民の代表	1 人	出雲市職員	1 人
その他（寿生訪問看護ステーション・Grow 訪問看護訪問看護ステーション・訪問看護ステーションクローバー・訪問看護ステーションあさの葉・つばさ訪問看護ステーション）			5 人

（議題）

I. 事業活動報告

《①利用状況報告》

月	R8 年 4 月	R8 年 5 月	R8 年 6 月	R8 年 7 月	R8 年 8 月	R8 年 9 月
人数	19 名	20 名	20 名	20 名	18 名	名

月	R 年 月	R 年 月	R 年 月	R 年 月	R 年 月	R 年 月
人数	名	名	名	名	名	名

令和 8 年年度 8 月末現在

要介護 1 ⇒ 9 名

要介護 2 ⇒ 6 名

要介護 3 ⇒ 2 名

要介護 4 ⇒ 1 名

要介護 5 ⇒ 0 名

平均介護度 1.7

《②事例報告》

M 氏 88 歳 女性 要介護 1

【既往】

左乳癌・癌性疼痛・腎盂癌・くも膜下出血・慢性硬膜下血腫・高血圧・両変形性膝関節症・腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症

【利用開始の流れ】

平成 31 年薫風の丘へ入居。当初は訪問介護サービス（入浴・掃除支援）と訪問看護サービスを利用されながら生活をされていた。その後令和 7 年春に左胸部に腫瘤が出現、増大し、乳癌との診断が出る。本人、家族とも積極的な治療は望まれなかったが、左胸部の疼痛もあり、同年 7 月に寿生病院へ疼痛コントロール

目的で入院し、9 月には状態安定され退院となる。この際、在宅復帰後は自身で医療用麻薬（貼付剤）を貼り変える必要が出てきた為、確実に貼り替えが実施出来るよう、定期巡回サービスへの変更となる。

【経過】

退院後は体調面に波はありつつも、出来なくなると自宅での生活が困難になるとの思いもあってか、出来る事は他者へ依存せずにご自分でできるよう努めておられた。（洗濯やシーツ交換、ゴミ出し等）また、薬の管理についても、居室内でカレンダーにセットしたものを自分で取だして服用しておられたが、最近になり間違いが増えてきた為、ヘルパーでの確認へと変更となる。医療用麻薬の貼り替えについても、手技を訪問看護の方より指導を受け、ご自分で貼り変えるところをヘルパーで確認するよう支援を継続している。（決められた時間より先に貼ってしまわれる事が時々あるが、概ね間違えずに貼っておられる）今後の方針としては、麻薬の貼付がご自分で出来なくなった際には、療養型病院への入院となっている為、本人の「出来る限り自宅で過ごしたい」との想いを尊重し、1 日でも長く在宅生活が継続出来るよう、医療・介護等各分野との連携を密に図りながら支援していければと考えております。今回のケースを通し、医療や介護の介入を適切に行うことで、可能な限り在宅生活を継続出来るよう支援していく事は、定期巡回サービスの本質であると個人的には感じております。今後もサ高住の利用者だけではなく、地域でお住まいの方々に対しても、サービス利用を通して一日でも長く在宅での生活が続けられるよう、努めて参りたいと思います。

《③今後の課題》

2027 年度の介護保険改正に伴い、定期巡回サービスについても見直し等が行われると思われます。ご承知のように、介護人材不足に対する国の施策として、介護 DX の推進が進められている中、デジタルツールの活用等が必須となってきております。当事業所においても、限られた人員の中で、ICT の活用や最新技術（AI 等）を積極的に取り入れる事で、業務の効率化を図りながら、サービスの質がより向上出来るよう努めていければと考えております。またこの度、夜間対応型訪問介護が 2027 年度に廃止が決まり（3 年の経過措置あり）今後定期巡回・随時対応型訪問介護看護との統合が進んでいくと思われます。※定期巡回・随時対応型訪問介護看護（Ⅲ）へ。また、今回の改正ではないかも知れませんが、要介護 1・2 の方に対しての生活援助（身体介護を除く）の総合事業への移行も議論が活発化しております。これは、単に重複したサービスの整理だけでなく、現在の介護人材不足の中にあっても、より専門性の高いサービスを必要とする重度の方に対しての支援が専門職によってきちんと提供出来る環境を整えるという側面もあります。ですので、私達定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所としては、そういったニーズに対し、職員の質向上は勿論のこと、どこまでが事業所として担っていけるかも踏まえた上での適切な人員配置等を検討・実施していきつつ、可能な限り地域のニーズに応えていけるようよう努めていかなければと考えております。

《④サービスの質の向上にむけての取り組み》

本年においても、年間研修計画を基にして、法定研修は勿論、当事業所として必要と思われる研修を企画・実施し、職員全体のスキルアップを図りました。

また、生産性向上に関する取り組みを本年も実施し、業務改善を図りながらケアの質向上に繋げられるよう努めています。

この度、ご家族へのサービスに対するアンケート調査も実施しました。

回答としては、概ね満足しているとのことご意見を頂戴しましたが、この結果に慢心せず、利用者の方やご家族の方により一層満足して頂けるサービスが提供していけるよう尽力して参ります。

《⑤その他》

本年度は、定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスの普及活動の一環として、パンフレットを刷新し、地域医療連携室（県中等）への広報活動も実施しました。その際、各 MSW の方からも「こんなサービスがあったのですね」等の反応があり、今後は退院にあたり、選択肢の一つにしますとのことご意見も頂戴しました。

また、広報誌も継続して配布しております（8 月配布）

※各居宅へも新しいパンフレットを配布。

今後の新たな活動として、出雲圏域での定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所との意見交換の場を持ち、現状の把握や課題についての共有をしつつ、地域へ根付くサービスになっていけるよう協力関係が築いていければと考えております。

Ⅱ. 質疑応答

質問①：資料の中に、要介護 1・2 の方の生活援助が総合事業への移行すると記載してありましたが、具体的なイメージが湧かず、どのような感じになるのでしょうか。また介護 1・2 の方であっても、決して支援があまりいらぬのではなく、何とか工夫しながら生活をしている方が多くおられ、軽度と一括りにするのではなく、個々の背景や現状をきちんと踏まえた上で、関係者の方々には検討をして頂ければと感じます。

『回答』

資料でお示ししましたように、以前からこのテーマについての議論がなされていますが、未だ結論に至ってない状況です。要介護 1・2 の方を「軽度者」とみなしてのサービス移行との考え方であるとは思いますが、報酬体系等を含め、内容は不透明であり、場合によっては、利用者負担増やサービスの利用を控える事にならないかとの懸念をもっております。また先程おっしゃられたように、介護度だけで線引きをしてしまう事は早計ではないかと思っております。この度の改正でどのような形になるかは分かりませんが、必要なサービスを使いたくても使えないという状況にはならないようにと願うばかりです。

<その他のご意見>

①出雲市内でのサービス利用が伸びないとの報告でしたが、3 年に 1 回ケアマネージャーの方を対象にサービスの需要についての調査を行った際、24 時間安心してヘルパーに見守りをして欲しいが、サービスが不足しているとの意見がありました。そのような状況であるにも関わらず、利用が伸びない原因が市としても分かり兼ねてるところです。また、出雲圏域には有料老人ホームやサ高住が多くあり、空きも出ているとの情報もある事や核家族が増えている状況も踏まえ、家族に配慮して在宅での生活を諦めて施設入居を決められる方が増えているのではないかと考えています。

現状としては、地道な活動にはなりますが、今活動されているMSWや居宅介護支援事業所への情報発信を継続していくことが一番の近道ではないでしょうか。また、定期巡回は包括報酬であることから、区分支給限度額に占める割合が大きく、デイサービス等のサービス利用等に影響を及ぼすケースもあることから、市の独自のサービスとして「拡大事業」というものがあり、要介護3以上で、一定の条件を満たす方について、支給限度額を超えた部分についての一部助成を行う制度がありますので、そういった制度も活用しながら利用に繋げる事も一つではないかと考えます。

後、HPにて出雲情報ライブ「介護の魅力発信」を掲載しておりますので、そういった場での広報活動も行ってみたいはどうでしょうか。

②要支援の方でも、出来る事と出来ない事があり、「在宅で暮らしたい」との気持ちがあっても、家族の都合等によりやむを得ず施設に入らなければいけない状況があると思います。また、定期巡回というサービスを知らないご家族やケアマネの方がおられ、結果施設入所へ流れているケースもあると考えられます。「住み慣れた地域で安心して暮らす」為には、このサービスを色々な方に知って頂く事が大切だと改めて感じました。

例えば今後の取り組みとして、ケアマネ協会の方との連携を図り、検証等を行う事でサービスのイメージが付き、結果利用へと繋がるのではないかと思います。利用者本人の「家で暮らしたい」との意向に添う為には、こういったサービスは必要であると感じます。

③地域の方はこういうサービスがある事を知らない人がほとんどだと思います。ですので、こういったサービスがあるという事を出来るだけ多くPRし、目に触れる機会を増やして頂きたいです。その中で、サービスを利用する本人や家族の一番関心が強い部分は費用面であり、施設へ入所するのか、定期巡回を利用して在宅で暮らすのかを比較する判断材料としても資料が欲しいです。また、PRを行う上で、資料を配るだけで難しいと思うので、地区社協や、老人会から回してもらい、話してもらったほうがより身近に感じるのではないのでしょうか。それぞれコミセンがあるので、コミセンを中心にして配布すると良いと思います。昨今一人暮らしの世帯が年々増加している状況の中、何とか皆で助け合いながら生きていける地域を作る事がこれからの方向性ではないかと思うので、皆様方には宜しくお願い致します。

④日頃から安心して連携をさせてもらっています。先程から、周知という事での話がありましたが、ポスターを作成してみてもいいでしょうか。そうする事で、目にした方々が問合せをしてみようかと思われるかもしれません。いろいろな場所で話しをする事も良いかもしれませんが、実際にその場にいた方の中には、自分事として聞いておられない方が一定数はいらっしゃるのではないかと思います。ですので、ポスターを見る事で高齢者の方ご本人が、将来を見据えて利用出来るかどうか、こういった内容なのかを相談されるかもしれません。それから、市場を広げていく事はいいですが、質の問題もあるかと思います。介護士の質向上については、各事業所課題はあると思いますが、一例一例経験を積み重ねていく事が大切だと思いますので、様々な病状の方を含め、一緒に頑張っていければと思いますので、宜しくお願い致します。

⑤訪問看護ステーションとして、新規事業を開始したばかりで、まだ地域の方々への挨拶も十分に出来てはいない状況なので、今日の会議で貴重なお話を聞かせて頂き、有難く思っているところです。また、日頃よりお世話になる事が多く、今後こちらとしても何か協力出来る事があればいつでもおっしゃって下さい。

⑥定期巡回が地域にうまく浸透しない理由を考えた時、在宅で過ごしてもらう家族の安心感と、施設で過ごしてもらう家族の安心感を比較した際、時代的に現在の施設は綺麗で個々も保たれている環境からも、施設を選択される方が断然増えてきていると感じています。そのような背景も踏まえ、「在宅で生活する」事に対し、どれだけ安心してもらえるかというところが大きな課題であるのではと思います。仮に訪問系サービスを利用し、24時間サポートを行っていても、常に近くにヘルパーや看護師がいる状況ではない訳ですし、すぐに駆け付けられない状況もあると思いますので、そういったリスクを考慮すると、先程言ったように、最近の施設は綺麗で、個々も保たれており、以前より環境面が大きく改善された事から、双方を家族が比較した上で選択する時代になったのではないかと考えます。今後も在宅生活を継続していくにあたっては様々な課題があり、本人・家族・訪看・訪介それぞれの想いをすり合わせた上で、安心・安全面も考慮した上で、皆がある程度納得できる落としどころが構築できるかどうかが重要になってくると思いますので、今後も模索していければと考えます。

当日はお忙しい中、多数の方にご参加を頂き、誠にありがとうございました。
今後も皆様から頂戴しました貴重なご意見を基に、より良いサービスが提供出来るよう努めてまいります。今後共、引き続きご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

薫風 24 ケアサポートセンター
管理者 杠 真司